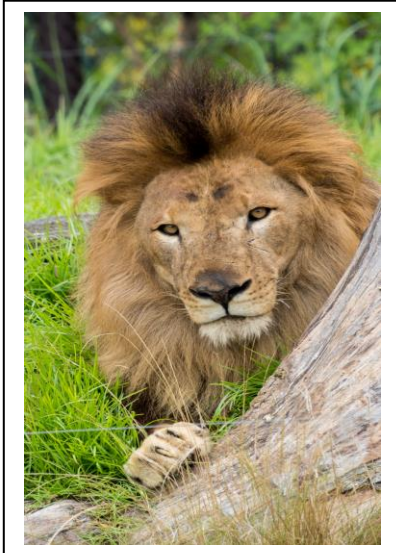


平成 29 年 9 月 27 日

敬愛短大附属幼稚園だより 10月号



今年の夏は雨の多い夏であったため、農作物の収穫にも影響が出てきているようです。

9月にはバスで年長さんが午前中に千葉中央観光農園にて梨狩りを行い、午後は千葉市動物公園でたくさんの動物たちの様子を見学しました。

ライオンの大きな堂々とした姿を見てびっくりしたり、フクロテナガザルの素早い動きや大きな声にみんなで声援を送ったりして、無事に帰園しました。

当日はお土産として自分でもぎ取った大きな梨がご家庭に届いたことと思います。また、年少さん、年中さんも運動会に備えて毎日元気に頑張っています。

園の中では、子どもたちの大好きな園庭での虫集めの対象もバッタやウスバカゲロウへと移り変わり、更に、トンボや蝶との追いかけっこも始まっています。また、ドングリもたくさん採れて、箱の中に大事に集めています。

年度当初にお知らせしましたように、ソニー教育財団主催の2017年度「ソニー幼児教育支援プログラム」に応募いたしました。当園の研究テーマは、

「ひとみキラキラ こころワクワク みんな大好きお友達と先生」 ーコンシェルジュ保育 for 「みつける」 and 「みつけるための援助」ー

A4版20ページの実践事例を含めた論文を9月7日付でソニー教育財団に送付しました。審査結果は本年12月中旬に発表される予定です。

昨年度は全国の幼稚園と認定こども園、保育所から109の論文(2016年度結果:最優秀園2園、最優秀特別園1園、優秀園12園、奨励園52園入選)が集まり、審査を受けました。全国レベルではこれまで短期大学附属幼稚園からの応募はありましたが、千葉県においては当園が初となりました。(応募に当たりまして、PTA会長の須永紗弥香様のお名前を記載させていただいております)

当園では応募規定にある「科学する心」を子どもたちが本来保有している感性が適切に刺激されることにより、幅広く、多様な事象に対して、興味・関心を持ち、人と関わりながら自ら行動を起こして知的好奇心を楽しもうと挑戦する心と定義して論文を構成しました。

また、本年度から月1回、土曜日にスタートしました5歳児とその保護者や卒園児を含む家族を対象に、年10回、40を超える科学プログラムから構成された「かがくのひみつきち」について、園長夫妻を指導者として全国にも例のない夫婦で行う科学教室を本園の特色ある実践として記述しております。(先生方も本来はお休みの日ですが、何人もの先生が交代でお手伝いに来てくれています)

更に子どもの心の動きの変化を適切にとらえ、教育的意図を持った援助を行う保育活動の手法を私たちは「コンシェルジュ保育」と呼ぶことにしました。一般的な「コンシェルジュ」は案内や紹介人ですが、究極のパーソナルサービスとしてこれを子ども一人一人に応じたきめ細かいサービスを行う機能ととらえ、私たちが目指す保育を行う「幸せ配達人」としての姿であるとして記述いたしました。コンシェルジュ保育はまだ走り始めたばかりで地に足がついたものではありませんが、この方向を目指して日々の保育を進めております。本年度が初の応募となる当園では、次年度の計画もしっかりと記述し、すでに2018年度の応募を見据えて計画の実践を開始しております。

参考:ソニー教育財団 <http://www.sony-ef.or.jp/>

(園長 杉山)